

開会挨拶

岸田 文雄（代読）

内閣府特命担当大臣（科学技術政策）

21世紀を迎える、わが国は人口減少時代に突入する一方、地球規模では、地球温暖化問題、エネルギー問題、食糧問題等の諸課題が顕在化する状況にある。資源の乏しいわが国では、科学技術の発展が経済成長の原動力であり、また、世界における諸課題の解決に貢献していくためには、新たな活力をもたらすイノベーションの創出が不可欠である。

福田総理は、今国会の施政方針演説において、「地球規模の課題の解決に積極的に取り組む“平和協力国家日本の実現”」および「地球温暖化対策と経済成長を同時に実現する“低炭素社会への転換”」を基本方針として掲げられた。これらの実現のため、科学技術力の抜本的強化に向けた取り組みとして、政府では、「革新的技術創造戦略」の検討を進めている。

この中では、エネルギー問題や地球温暖化問題の抜本的解決に向けて、わが国が世界に誇る環境エネルギー関連技術の優位性を保持するとともに、温室効果ガスの排出を究極的にゼロにするような、革新的科学技術のブレークスルーを目指した取り組みが検討されている。地球規模の課題の解決には、イノベーションのグローバルな取り組みが不可欠である。本会議は、イノベーションに関する内外の取り組みを踏まえて、持続可能な発展、気候変動、水や食料の不足などの地球規模の課題の解決を目指し、イノベーションのグローバルな展開には何が必要か、また日本はどのような役割を果たすのかを議論し、その解決策を求ることを目指している。各国の英知にお集まりいただき、そのような議論が行われることは非常に素晴らしいことである。今年の6月の沖縄でのG8科学技術大臣会合、7月の北海道洞爺湖サミットに向け、本日の国際会議による議論が、今後の検討への貴重な貢献となることを期待している。